



●甲府やまなみクラブ会長主題：継続は力なり

～困難があってもバランスを保ちながら進み続けましょう～ 松本 公夫

●あずさ部長 主題：親睦とCS活動を部の原動力として外へ飛び出そう!! 大和田浩二(松本)

●東日本区理事主題：挑戦無くして進化なし 山下 真(十勝)

●アジア太平洋地域会長主題：アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる ラチャン・マニカーン(タイ)

●国際会長主題：ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク
(ノルウェー)

甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2026年9月
No.48

●今月の強調目標

EMC

●今月のことば

「そなえよ つねに」(Be Prepared)

ボーイスカウト及び指導者のモットー

仙洞田安宏 君 選

今月の例会案内(第48回)

甲府・甲府やまなみ合同例会(幹事 甲府やまなみ)

●日時：2026年9月2日(水) 18:30～20:30

●会場：山梨YMCA

●司会：米山 俊彦 君(甲府やまなみ)

●会費：1,500円(食事代)

・開会点鐘 甲府やまなみ 松本 公夫 会長

・ゲスト・ビジター紹介 司会者

・ワイズソング 一同

・会長挨拶 甲府やまなみ 松本 公夫会長

甲府 小倉 恵一 会長

・部長挨拶 あずさ部部长 大和田浩二 様

・ワイズディナー

・ゲスト卓話

「山梨YMCAの不登校問題への取り組み」

山梨YMCA南西教室管理者

教育心理研究所代表 土肥 満 様

・諸報告 両クラブ

・ハッピーバースデー&アニバーサリー 両クラブ

・YMCAの歌 一同

・閉会点鐘 甲府 小倉 恵一 会長

Photo
of
monthly



【8月1日(土) あずさ部評議会・あずさの集いにて
やまなみ参加者(長野市にて)】

8月のデータ

会員数:12名 例会出席:メン7名 例会出席率:58% ゲスト:前島誠様 ニコニコ:4,600円
メーキャップ:藤原一正 修正出席率:67%

ハッピーバースデー

メン 仙洞田安宏 (9/15)

パートナー 渡邊 隆子 (9/5)

▼今月のことば▼

仙洞田安宏

8月の例会での卓話がボーイスカウトの話でした。ボーイスカウトの創始者ロバート・ベーデン＝パウエルが提唱した、スカウトおよび指導者の最も重要なモットー(標語)です。いかなる事態が起ころうとも、心と体に隙を作らず、すぐに対応できる心構えと準備を日頃から持っておくことを意味します。

7月の「令和8年熊本地震」をはじめ、近年は異常気象による自然災害が多発していますが、この言葉は非常時のみならず、日常の仕事や家庭生活、健康管理についても言えるのではないのでしょうか。予測されるリスクに対して事前に備え、変化を柔軟に乗り越える積極的な生き方の未来思考の姿勢が必要だと思います。

▼BS 運動を学んだ 8 月例会▼

仙洞田 安宏

猛暑が続く8月5日(水)、やまなみクラブ8月例会が山梨YMCAで開催されました。

松本会長のあいさつでは、年間の計画を如何に実行していくか、会員の皆さんの積極的な参加を期待すると話されました。

ワイズディナーの弁当を頂いた後、ゲスト卓話は、ボーイスカウト甲府第5団の団委員長をされている前島誠さんから、「ボーイスカウト運動と山梨YMCA」と題してお話を聴きました。前島さんのお父上は元甲府クラブの会員で、私も甲府クラブに在籍中はお世話になりました。

卓話はまず、ボーイスカウト(以下BS)とは?からはじまり、その歴史、組織広がり、活動内容、モットー「そなえよつねに」、スローガン「日日の善行」などの紹介がありました。

甲府第5団は1962年に、山梨YMCA理事でBS山梨連盟初代事務局長兼コミッショナーであった蓮沼庄伊氏と、初代山梨YMCA理事長の市川規一氏が中心となり、当時東京YMCAから派遣されていた奈良



【甲府第5団のチーフを披露する前島様】

昂主事を隊長に、日本連盟に加盟しました。全国のYMCAの中でBSの育成母体を持っているのは山梨YMCAだけだそうです。5団のネックチーフは奈良昂主事の

デザインによるもので、YMCAの旧マークの逆三角形と3色に由来し、現在に受け継がれています。また、神社を育成母体とする「神社スカウト」という属性があり、甲府の第10団は武田神社が育成母体ということも知りました。

ただ、近年の少子化や社会環境の変化で、団員数も減少しているということで、運営にも苦勞しているとのこと。青少年の健全な育成という点では、BSもYMCAも共通する点があり、これにY'sが加わって新しいプログラムを開発したらいと思いました。また、10月に開催するグローバルフェスタにBSも出展したらいと、松本会長から働き掛けがありました。

丁度この日は、4年に1度の日本ジャンボリーが広島県神石高原町で開催中(8/4から8/10)とのことで、時宜を得た卓話でもありました。

その後の諸報告・協議では、9月(甲府クラブとの合同)、10月(グローバルフェスタとその後の打ち上げ)の例会について、また熊本地震への募金についての相談がありました。

出席者(敬称略):松本・米山・渡邊・大澤・和田・仙洞田・田草川、ゲスト:前島誠(BS甲府第5団・団委員長)



▼8 月例会ニコニコメッセージより▼

▼ボーイスカウト甲府第5団・前島誠様より、ボーイスカウトについてお聴きました。「そなえよつねに」をモットーと「日日の善行」をスローガンとし、YMCAを活動母体としている団体であります。(松本公夫)

▼今まで名前は聞いたことがあったボーイスカウト・カブスカウト、そして知らなかったビーバー、ローバー、ベンチャースカウトについて知ることができました。前島さんありがとうございました。(米山俊彦)

▼都合で例会に遅れました。ボーイスカウト5団委員長、前島さんありがとうございます。(渡邊 隆)

▼ボーイスカウトの名は知っているが、その活動や

実体はほとんど知らない状態でした。その活動はこれからの世に必要な事ではないかと思います。特に災害時のスキルは一般の人に広く知れたらと思います。(和田幸士)

▼出席できたことに感謝 (大澤祥子)

▼前島さんありがとうございました。ボーイスカウトを見たことはあるけれど知らない人が多いので皆さんに知ってもらえてよかったと思います。ここで種がまけたので、どこかで芽が出るいいと思います。

(田草川啓)

▼ボーイスカウトと山梨YMCAの関係性について知ることができました。これから両者の利点を活かした活動ができると良いと思いました。(仙洞田安宏)

▼ あずさ部評議会に参加して ▼

米山 俊彦

8月1日土曜日、長野市の商業文化複合施設「ToiGO WEST」で開催されました今年度のあずさ部第1回評議会へ、やまなみクラブから松本会長、渡邊夫妻、仙洞田さん、藤原さんと私の6名が参加しました。

中央本線で塩尻を経由し、篠ノ井線乗り継いで長野までのおよそ2時間30分、甲府の猛暑から逃れる信濃路の旅でした。

評議会は、東京の3クラブと長野の2クラブ、そして山梨の4クラブから45名の出席者でした。

開会式は、ホストクラブであります長野クラブメンバーのトーンチャイムの伴奏による、ワイズソングの合唱で始まりました。湯田勝彦会長の歓迎の挨拶では、評議会当日の夜に善光寺参道を中心に行われる長野市の夏最大の祭り「長野びんずる」の紹介と7月28日に発生した熊本地震の被災者支援募金活動への協力依頼がありました。

議案審議では、第一号議案として2025-2026年度あずさ部会計報告と監事報告、第二号議案として、次次期(2028-2029年度)部長クラブを甲府21クラブとする議案が提案され、全会一致で承認されました。また、第三号議案では、2026-2027年度あずさ部予算の修正が提案され、意見がいくつか出されましたが、原案のとおり承認され、予定通りの時刻に閉会となりました。

評議会の中で、早速、熊本地震の被災者へ32,091円の募金が集まり、東日本区を通して被災地に届ける旨の報告がありました。

評議会終了後は、長野クラブの例会会場となっていますレストラン「やま」に場所を移し、「あずさの集い」が行われました。今回は、クラブ会長報告が「あずさの集い」の中で行われ、飲食を伴いながら和やかな雰囲気の中で、各クラブから報告やPR、etc.があり、久しぶりに情報交換や懇親を深めることができました。

最後に、皆でトーンチャイム演奏に合わせて、唱歌「ふるさと」を歌い、「あずさの集い」はお開きとなりました。

「あずさの集い」終了後、私は祭りの準備が進み、賑やかさを増す参道を善光寺へ向かい、今回の長野行きの目的の一つでありました念願の善光寺参詣が叶いました。しかし、三々五々集まる法被姿の踊り手の熱気や出店からのいい匂いを感じながらも、「びんずる踊り」が始まる前には長野駅を発たなければならず、残念ながら祭りの雰囲気を少し感じただけの「長野びんずる」でした。

◆ これからの予定 ◆

- ✓9月4日(金)～6日(日)
ユースボランティア・リーダーズフォーラム
(高尾の森わくわくビレッジ)
- ✓9月10日(木)～13日(日)
第75回国際大会(マレーシア・ペナン)
- ✓9月 7日(木)～13日(日)
第20回国際ユースコンボケーション(同上)
- ✓10月3日(土) グローバルフェスタ及び10月例会
(甲府駅北口広場及び魚そう北口分店)



★東京多摩スマイル 10 周年記念感謝会★

仙洞田 安宏

8月23日(日)午後4時から、東京多摩スマイルクラブの10周年記念感謝会がZoom形式で開催され、参加しました。

はじめに、10年間の歩みが映像で映されました。東京多摩スマイルクラブは、2016年7月にチャーターした東京多摩みなみクラブと、2019年2月にチャーターした東京町田スマイルクラブが2023年7月に合併したクラブです。2024-25年度の東日本区大会で最優秀クラブ賞を受賞していることから分かるように、東日本区でも模範的な活動をしているクラブです。

記念講演は、同クラブの会員でもある、藤田智さん(恵泉女学園大学副学長)の「家庭菜園のススメ」で、NHK・Eテレの番組でもお馴染みです。同クラブでは藤田さんの指導の下「ぼんぼこ農園」を運営しています。

私ごとになりますが、同クラブが発足間もない頃、役員会に呼ばれて、当時甲府クラブで活動していた「ワイズ農園」についてお話をいただいたことがあります。同クラブには藤田さんという専門家がおられるので、私からは農園活動を通した、YMCAや

地域社会への奉仕活動について紹介したことを思い出します。

講演の中で、「大地を耕すことは、人の心を耕すこと=耕地耕心」と述べられましたが、まさに我が意を得たりと得心した次第です。

このような集会を全てZoomで行ったのは、おそらく初めてのことだそうで、100人近い参加者のPC画面はとても賑やかなものでした。



山梨 YMCA 総主事

中田 純子

銀河鉄道の森から「わくわく」を育む未来へ

9月、防災を強く意識する季節です。この夏の連日の猛暑や豪雨に加え、熊本地震や千葉豪雨の記憶、気候変動や気温上昇、連日のクマ出没など、自然の調和が大きく揺らぐ日々が続いています。「壊れた自然の循環を取り戻せるのか」という大きな問いの前に立つとき、私たちは「すべての命はつながり、生かされている」という原点に立ち返られます。かつての姿にすぐ戻すことは難しくても、自然への敬意と命の尊さを心に留め、変化した環境に適応しながらたくましく生きる工夫が今、求められています。

向き合うためのカギであり、心豊かに育つための魔法の言葉は「わくわく」です。

YMCAが大切にしてきた「Spirit, Mind, Body(スピリット・マインド・ボディ)」をフルに呼び覚まし、森の中で風に押され、仲間と協力して試練を乗り越える。自然の恵みと厳しさの両方を全身で受け止め、心躍らせ「わくわく」の体験を重ねること。それこそが、いざという時に自分と他者の命を守る「本物の知恵」へと変

わっていきます。

自然を愛し、慈しみ守ることこそが、私たちが地球に届けられる最高の「恩返し」です。そんな命と出会う冒険の舞台が、山梨YMCAの「銀河鉄道の森」にあります。

創立80周年記念「施設整備募金2026」のスタートに伴い、「まだ見ぬ森の見学会をしよう」「東屋がないのであれば、作っちゃおうじゃないか」「あの森にいろいろな人を招こう」と少年のように目を輝かせたワイズメンの皆様から熱いお声をいただきました。

これまでも試練のたびに温かい言葉と祈りと募金で支えてくださった皆様の情熱という「わくわく」と、この森に集う子どもたちの「わくわく」の好奇心が重なり合う時を想像すると、私自身胸が躍り、未来への希望の光が差し込んできます。

この大切な拠点をどのように生かすのかが試される今、「施設整備募金2026」へのご協力をよろしくお願い申し上げます。「どんなところ？」と心が「わくわく」された方、ぜひ山梨YMCA生涯学習事業までお気軽にお問い合わせください。

「わくわく」を育む希望の未来へ向かって共に歩んでまいりましょう。